

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C540	C510	17-301	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名(原題/訳)</b>			
Carvedilol delays the progression of small oesophageal varices in patients with cirrhosis: a randomised placebo-controlled trial. カルベジロールは肝硬変患者の小食道静脈瘤の進行を遅延させる:無作為プラセボ対照試験			
<b>執筆者</b>			
Bhardwaj A <sup>1</sup> , Kedarisetty CK <sup>2</sup> , Vashishtha C <sup>2</sup> , Bhadoria AS <sup>1</sup> , Jindal A <sup>2</sup> , Kumar G <sup>1</sup> , Choudhary A <sup>2</sup> , Shasthry SM <sup>2</sup> , Maiwall R <sup>2</sup> , Kumar M <sup>2</sup> , Bhatia V <sup>2</sup> , Sarin SK <sup>2</sup> .			
<b>掲載誌</b>			
Gut. 2017 Oct;66(10):1838-1843.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID:</b>
肝硬変、食道静脈瘤、門脈圧亢進			27298379
<b>要旨</b>			
<p>背景と目的: カルベジロールは大きな食道静脈瘤に対する一次予防に効果的である。我々は小から大への食道静脈瘤に進行を予防するための使用効果を調査した。</p> <p>方法 小食道静脈瘤をもつ肝硬変患者をカルベジロール(n=70)またはプラセボ(n=70)に連続的に前向きに無作為化し最低 24 ヶ月の間追跡した。内視鏡検査による観察は投与前とその後 6 ヶ月毎に施行した。肝静脈血圧勾配(HVPG)は、試験開始時と12 ヶ月後に測定した。主要エンドポイントは大きな静脈瘤の発生であった。</p> <p>結果 2 群の試験開始前の臨床的特徴は同等であった。肝硬変の主要な病因は両群とも非アルコール性脂肪性肝疾患であった。投与されるカルベジロールの平均用量は 12+/-1.67mg/日であり、得られる目標心拍数は 58+/-3bpm であった。カルベジロール群の患者はプラセボ群に比べて大きな静脈瘤への進行が少なかった(79.4%対 61.4%;p=0.04);大きな静脈瘤への非進行の平均時間はカルベジロール群の 20.8 ヶ月(95%CI 19.4~22.4)に対してプラセボ群(p=0.04)では 18.7 ヶ月(95%CI 17.1~20.4)であった。カルベジロール群(-8.64%)ではプラセボ(+0.33%) (p=0.22)と比較して HVPG の中等度の減少が 1 年間にあった。 両群の中で静脈瘤の出血または肝臓関連の原因の死亡はなかった。大きな有害事象は両群で観察されなかった。</p> <p>結論: カルベジロールは肝硬変患者で小食道静脈瘤を大きなものへの進行を遅延させるうえで安全かつ有効である。</p>			